

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	文化人類学A		
英文授業科目名	Cultural Anthropology A		
開講年度	2008年度	開講年次	1(2)年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	南里 浩子		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
責任教員・島内景二	

【主題および達成目標】
<p>世界中には、さまざまな民族、さまざまな文化が存在する。文化人類学は、そんな多様な民族や文化の研究を通して、人類文化の基礎を学ぶ学問である。人類は、他の動物とは違い、地球上のあらゆる環境に生きている。それは、種としての形質を変えることで環境に適応するよりも、食料生産技術の発達とそれに見合う社会・文化を築くことで環境に適応し、あるいは環境そのものを変えて進化・発展してきたからである。そういった人類社会のあり方を、技術・生産的な側面（生態人類学）と交換・経済的な側面（経済人類学）から見ていく。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
とくになし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
とくになし

【教科書等】
<p>参考書：綾部恒雄・田中真砂子「文化人類学と人間」（三五館） 山下晋司・船曳建夫「文化人類学のキーワード」（有斐閣双書） 小田亮「構造人類学のフィールド」（世界思想社） 山下晋司編「文化人類学入門—古典と現代をつなぐ20のモデル」（弘文堂）</p>

電気通信大学 平成20年度シラバス

【授業内容とその進め方】

文化人類学Aでは、主として人間と環境の係わり方を土台にして、サルからヒトへの出発点から始め、技術・経済の側面から生業様式を中心にして、採集狩猟民、牧畜民、農耕民、都市民といった生活者の社会や文化を理解し、さらに経済人類学の「交換」について理解する。

- 第1回 文化人類学と私(ガイダンス)
- 第2回 文化人類学の成立とフィールドワーク
- 第3回 フィールドワークの手法
- 第4回 人類の誕生—サルからヒトへ
- 第5回 人間と自然—生態人類学の視点
- 第6回 採集狩猟民の生活—ブッシュマン
- 第7回 牧畜民の生活1—氷原のネネツ
- 第8回 牧畜民の生活1—草原のモンゴル
- 第9回 牧畜民の生活3—砂漠のベドウィン
- 第10回 農耕民の生活1—インドネシアの農民
- 第11回 農耕民の生活2—インカ帝国の経済
- 第12回 都市民の生活1—オリエントの都市の成立
- 第13回 都市民の生活2—伝統ムスリム都市
- 第14回 交換の様式1—経済人類学の視点
- 第15回 交換の様式2—社会統合のかたち

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法：

期末試験および出席・小レポートの結果を、次のように総合評価する

成績評価 期末試験 80%

出席・小レポート 20%。

【オフィスアワー：授業相談】

授業後、相談に応じる。

【学生へのメッセージ】

教科書がないので、授業をよく聴いて理解すること。分からなければ質問すること。

【その他】